

大谷(京都)

独自の取り組みで

「英語力」「国際理解力」

「プレゼンテーション力」

を養う

学校動画を公式HP
「shigaku.net」で
公開中!



バタビアコースの
「バタビア」って何?

米国バタビア市が開発した、複数の
教員が教室に入り授業を行う「バタ
ビアシステム教育」に由来する名
称。同校が昭和35年に日本で初め
て導入して注目を集めた。



▲「模擬国連」は、生徒が国の大使になり、「難民問題」「環境問題」など決められたテーマに関して意見を交わす。
「大使として意見を述べるには、事前の調べ学習が必須。資料は英語で書かれた論文であることが多く、これらの資料を読み解く英語力が必要になります。さらに、テーマを通じて異文化を理解して、自分の意見を構築し、自分の言葉で発信します」(林先生)

2019年度より高校で

『バタビアコース・グローバルクラス』始動!

来年度4月、大谷高校では『バタビアコース・グローバルクラス』をスタートさせます。

「このクラスの特徴は、『模擬国連』を授業に取り入れるところにあります。この取り組みを通じて英語力をアップさせると同時に、異文化への興味・関心を高めて理解を深め、さらに自分の意見を発信する力を養うという極めてユニークなクラスとして展開します」

(学習支援センター長・井上博之先生)

『模擬国連』とは、国際連合が存在していなかった1923年にハーバード大学で始まった国際理解のための活動で、当時は『模擬国際連盟』と呼ばれており、日本に導入されたのは約35年前。中心となっていたのは当時、上智大学の教授であった緒方貞子氏(元・国連難民高等弁務官)。やがてこの活動は東大、京大、阪大を中心として全国に広がり、今では高校や中学校などでも実践する学校が増えていく歴史と実績のある取り組みです。とはいえ『模擬国連』は中高においてはクラブ活動などの課外活動で取り組む学校がほとんど。同校の『バタビアコース・グローバルクラス』のように正規の授業として取り組むことはめずらしく、教育界から注目を集めています。このクラスに中学から内部進学する場合は、英語と国語の成績が条件を満たしていれば編入可能としています。

「これまで本校ではGSI部というクラブ活動において『模擬国連』に取り組んできました。その結果、部員たちの視野が広がり、何ごとにも積極的な姿勢で取り組むようになったという手応えを感じます。『バ

タビアコース・グローバルクラス』の立ち上げには、『模擬国連』を授業として取り組むことで、多くの生徒の力を伸ばしたいという思いがあります」

(英語科教諭/GSI部顧問・林陽樹先生)

「このクラスでは『国際関係ゼミ』という授業も取り入れ、『模擬国連』とともに、同クラスの柱となります。『国際関係ゼミ』は、生徒が主体的にテーマを決めて探究するのですが、その分野の第一人者にコンタクトをとり講演を依頼したりもします。コンタクトをとるのもすべて生徒が行います。生徒たちには、「いろいろな経験しよう!」「どんどん失敗しよう!」と伝えたいですね」

(井上先生)



▶ 専門家を招き、調査資料やフィールドワークを実施し、国際的な諸問題についてゼミ形式で学ぶ『国際関係ゼミ』。プレゼンテーションやディスカッションを通して学びを深めていく。



▲「グローバルクラスでは高1の3月と高2の3月にそれぞれ1カ月の留学を行います。行き先はカリフォルニア大学デビス校です。1度の留学では失敗やできなかったことをやり直す機会がありません。2度目の留学で自分がどれほど成長できたのかを実感し、また新たな課題を見つけて次のステップにつなげてほしいですね」(井上博之先生/左)
「高1で英検2級を目指し、高2からTOEFL・IELTSを受験し、世界が認める検定試験にチャレンジしていきます」(林陽樹先生/右)



▲現在、GSI部の部員は16人。クラブ活動を通じて向学心が高まり、京都府立大学、大阪府立大学、静岡県立大学などに進学を果たしたOB・OGも多数。同部は、グローバルクラスがスタートする来年度以降も活動を継続します。

▼「第13回公文国際模擬国連大会最優秀賞・ベストゲスト賞(2018年)」「第12回公文国際模擬国連大会ベスト賞(2017年)」「第9回全国高校模擬国連大会初出場[2チーム出場](2014年)」などすばらしい実績を積みGSI部。



▼プレゼンテーション力を鍛えるトレーニングに取り組むGSI部の部員たち。世界が掲げる諸問題について皆で話し合い、その解決方法を考えていく。



『バタビアコース・グローバルクラス』の

先駆けとなる『GSI部』の活動

Interview★

現在、GSI部で活動している4人。『模擬国連大会』に出場し、自分自身が変わったと感じることを語っていただきました。

「高1のときに、マリ共和国大使として『模擬国連大会』に参加したのですが、参加者の英語力や伝える力のレベルの高さに驚きました。GSI部を通じてそのような経験をする中で、私自身も意見を自分の言葉で伝える力がつきました」と感じます」(高2・Sさん)

「ブラジル大使として『模擬国連大会』に参加。先輩と3人で参加したのですが、先輩の発言力や積極性に感動し、私もあなりたいと思いました。また、その大会で最優秀賞を受賞し、自信ができました」(高2・Yさん)

「バングラデシュ大使になりました。「難民問題」がテーマで、調べるうちに、日本の恵まれた環境を改めて知りました。将来は、土木関係の仕事に就き、海外のインフラ整備に携わりたいたいと考えています」(高2・Aさん)

「クェート大使になり、「水不足が子どもに及ぼす影響」をテーマに参加しました。水の事情は国によってさまざま、いろいろな意見が飛び交うのを見て、私も自分の意見を自分の言葉で発言できるようになりたいと思いました」(高1・Nさん)

